

令和8年度兵庫教育大学教員研修プログラム

知っておきたい!港湾の役割—物流、利用、環境、防災の事後アンケートまとめ

開催日:2026年7月30日

参加者:14名(小学校:8名 中学校:2名 高校:1名 特別支援学校:3名)

定員:20名

1. 受講した理由

この講習の受講を選んだ理由としては、講義だけでなく、見学や実習があるという回答が多かった。

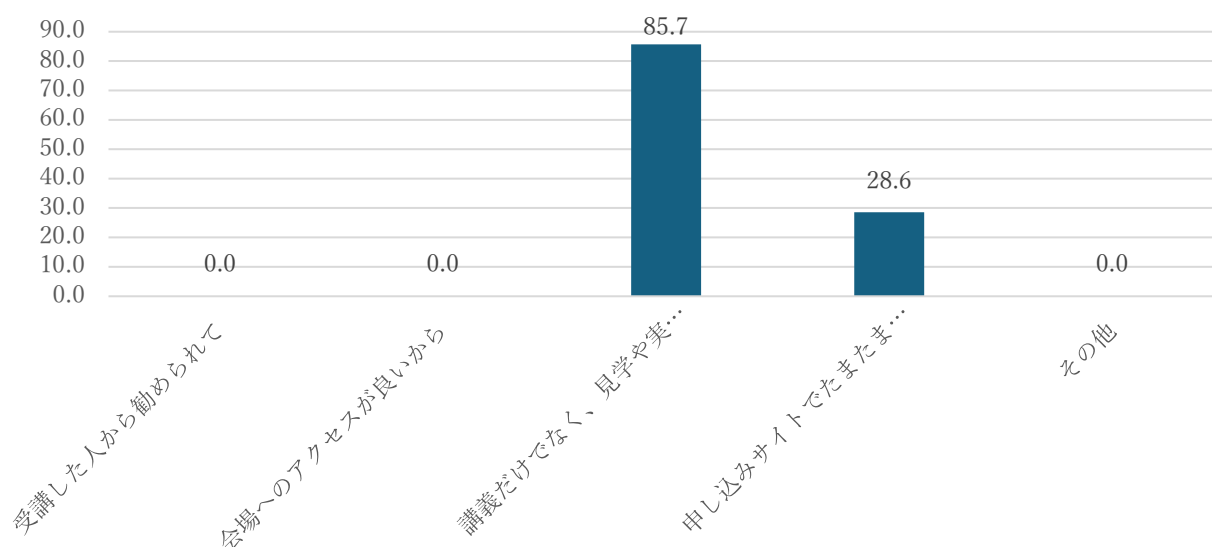


図1 講習の受講を選んだ理由 (N=14)

2. 講義の効果

A) 実体験・見学の充実(クルーズや実習)

- 高い現地体験の価値: 現地で本物を体験する重要性を多くの受講者が実感。
- 充実のクルーズ・実習: 神戸港クルーズや運河での放流・アサリ探しが好評。
- 講義と見学の相乗効果: 「講義+見学」の流れが理解を深めるのに効果的。
- 次世代への教育意欲: 実物見学を通じ、子どもに本物を教える意欲が向上。

B) 講義のわかりやすさと視覚的工夫

- 視覚教材による理解促進: 写真や動画の多用により、具体的なイメージが定着。
- 工夫された丁寧な解説: 全ての講義が分かりやすく、受講者が工夫に感動。

C) 新たな知見の獲得(神戸港の歴史・土木・防災)

- 多角的な港湾の学び: 神戸の歴史、都市計画、成り立ちを深く理解。
- 土木と防災の仕組み解明: 防波堤の役割など、普段意識しない土木技術を網羅。

- **最新の気候変動対策:**海面上昇や防潮堤計画への気候変動の影響を学習。
- **専門チームへの理解と信頼:**見えない場所で対策を講じる土木チームの重要性を認識。

E)「土木」に対するイメージの変化

- 自由記述から、研修の成果として、受講前後の「土木」に対する認識の転換が見えた。

表Ⅰ 「土木」のイメージの変化

受講前のイメージ	受講後のイメージ（認識の転換）
土木と建築はほぼ同じであり、違い 土木と建築の明確な違いや区別（分け方）が正しく理解できや区別がよく分かっていなかった	た
体力のいる仕事、肉体労働、大変な	自然を相手に安心安全を守り、くらしを支えるとても誇らしい仕事という認識だった
	仕事だと知った
自分にはあまりなじみのない業界	私たちの生活する環境のベース（基盤）がすべて土木によって成り立っているという新しい発見があった
	だと思っていた
具体的な仕事内容のイメージが薄	都市開発への貢献や、土木の多目的な側面を知ることで世界が広がった
	かった
身近（父親の職業など）ではあって	「湾の健康診断の治療の一つが土木」という例えや、凄まじい努力を知って面白いと感じ、次の目標（橋など）ができた
	も、詳しく中身を知らなかった

3. 今後受けてみたい講習内容

「普段行けない特別な場所」で、生活・歴史・防災・キャリア教育を結びつけた希望が多かった。

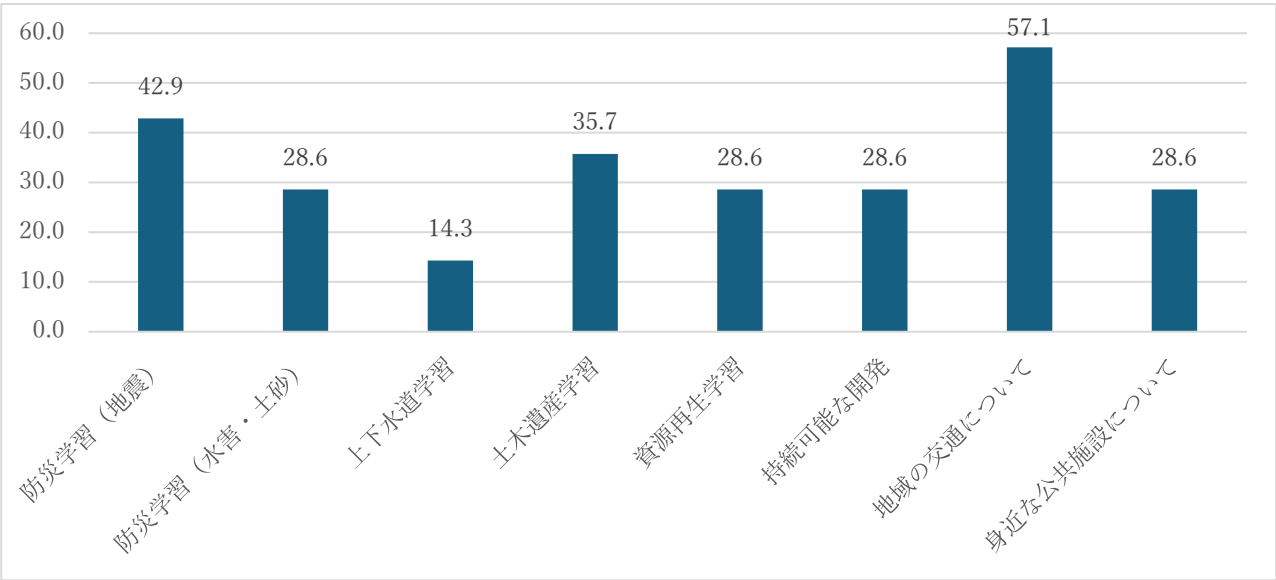


図 2 受けてみたい講習内容 (N=14)